



偕楽荘とことん探訪

地域の健康寿命にも貢献しています

役割が変わってきた

軽費老人ホーム

前回の東京オリンピックの一年前、昭和三八（一九六三）年に制定された老人福祉法で創設された軽費老人ホーム。時代の移り変わりにより、社会的な役割も変わってきました。以前までは、家庭環境や住宅事情を理由に、自宅で生活することが困難な方を対象とした低所得者向けの施設でした。現在では、安全で安心ができる住まい、つまり、自立した日常生活を継続するための住み替えの場として、軽費老人ホームを希望する方が多くなっています。

軽費老人ホームには、A型、B型、ケアハウス、都市型と四種別があります。偕楽荘は軽費老人ホームのA型になります。A型の施設は、自分自身で自立した生活ができる方の施設であり、加齢によって心身機能が低下する中で、自身の能力をできる限り維持して、

自分らしい生活を続けることを目標としている施設です。

私たち職員がご利用者を支援していく上で心がけていることは、積極的な介助はかえって自立度を下げってしまうこともあるため、見



高齢者が日常生活で求めることは「安心・安全」だと考えます。そこで、偕楽荘にできることは何かと考え、「入居者五十名の安心・安全な生活」プラス「地域高齢者への安心・安全な生活への発信」を行いたいと考えています。つまり、偕楽荘を地域の方に活用していただくことが必要だと考えています。

二つ目のキーワード「地域化について」  
偕楽荘は入居定員五十名の小さな施設ですが、周辺地域の単身高齢者や高齢者世帯の入居に対するニーズは年々高まっています。しかし、入居希望に十分対応することはできず、申し込みから数年待っていたりしている状況です。

現在、介護予防教室『GOGO体操』や料理教室『わくわくキッチン』、各種クラブ活動や講習会などを地域の皆さまに開放し、偕楽荘利用者と共同で安心・安全な生活の実現に取り組んでいます。

その参加者の中から、偕楽荘の取り組みに賛同してくださり、入居に繋がることもあります。

また、これらの取り組みを偕楽荘の職員だけで行うのは困難です。地域にある社会資源の活用や連携が必須となっています。そして、そのような連携を通じて、偕楽荘が今まで蓄積してきた自立高齢者支援のノウハウを偕楽荘利用者だけでなく、地域の高齢者支援にも生かしていくことが、軽費老人ホームA型の施設である偕楽荘の大切な役割だと思います。

守りなどによる安心感を提供しつつ、ご本人の能力を維持していただく、ということですが。

偕楽荘のキーワードは二つ

「介護予防」と「地域化」

二つ目のキーワード「介護予防について」

加齢とともに身体機能は低下します。その低下を防ぎ、今までの生活を今後も維持していくためには、介護予防が必要です。介護予防に取り組むことは、健康寿命を伸ばすことにつながります。

健康寿命とは、認知症や介護を必要とする状態にもならず、今までどおりの自立した生活を送ることができる期間のことをいいます。

この状態を少しでも長く維持するために、偕楽荘では、介護予防体操『GOGO体操』や料理教室『わくわくキッチン』をはじめ、クラブ活動、認知症予防の『脳トレ』などを実施しています。また、介護予防には話すこと、コミュニケーションも非常に重要です。そのため、ご利用者が活発に毎日を過ごし、日常生活の中に自然と介護予防ができる環境をつくることを意識しています。

偕楽荘ご利用者の属性

ご利用者の年齢層は80～89歳の方が30名で全体の6割を占めています。最年少は69歳、最高齢は95歳です。また、半数強の方が5年以上、偕楽荘で生活しています。

(令和2年3月末現在)

